

(米空軍：チャット・ウォーレン一等兵撮影)



司令官交代式

第18航空団司令官
ケネス・ウィルズバック大佐

2009年7月9日午前9時、嘉手納基地に駐留する主力部隊第18航空団のChange of Command（司令官交代式）が挙行されました。

空軍の司令官交代式の伝統は、18世紀の旧ドイツ、プロシア王国時代にさかのぼります。同時代、各部隊ごとに独特の配色とデザインをあしらった軍旗が作られるようになりました。それ以来、部隊の兵士たちは忠誠心と信頼を、その軍旗と司令官に託すようになりました。

司令官交代式は第18航空団の上級部隊である第5空軍（横田基地在）司令官ライス中将の出席のもと執り行われました。嘉手納飛行場の格納庫に、第18航空団を構成する5つの群（航空機運用、航空機整備、任務支援、施設、医療）の隊員らが整列し、それぞれの軍旗を掲げました。その前で、離任するウィリアムズ准将が第18航空団軍旗をライス中将へ返還し、ライス中将はそれを受け取り、そして新しい司令官ウィルズバック大佐へ軍旗を手渡しました。隊員の立会いのもと、新しい司令官がその責任ある地位を受け入れ、司令官が交代した瞬間です。

第18航空団新司令官ケネス S ウィルズバック大佐は3,600時間余の飛行時間を持つ指揮官飛行操縦士で、主にF-15戦闘機を操縦する現役パイロットです。前職はハワイ州在太平洋空軍本部の運用計画部の副部長を務めていました。ウィルズバック大佐の沖縄赴任は2度目で、地域の安全保障、平和、安定のため任務遂行に励むとし、また再び沖縄にもどれたことは喜びであり、地域の人々との交流を楽しみにしています、と抱負を述べました。

(米空軍レイ・ラモン一等軍曹撮影)

Part I

司令官交代式

基地内の子供達の夏休み

KSOボーリング・ゲーム

英語ボランティア

Part II

!!! 今月のSpotLIGHT

嘉手納基地で働く様々な職種の日本人従業員にスポットをあてて毎月紹介して行くコーナーです。意外な発見があるかも...必見です!

KLIインターンシップ体験記 ①

KLIインターンシップ体験記 ②

KLIインターンシップ体験記 ③

沖縄傷痍軍人の会訪問



(米空軍：アマンド グラビック上等兵撮影)



(米空軍：アマンド グラビック上等兵撮影)



嘉手納基地に住む子供たちの夏休み

第18航空団広報局



日本人である私たちにとって夏休みの思い出といえば海水浴、花火大会、セミ取り、夏休みの友、自由研究などいろいろありますね。皆さんは、アメリカの子供たちが夏休みの間一体何をして過ごしているのか気になりますか？今月号では嘉手納基地内に住む子供たちの夏休みを少し覗いてみましょう。

在沖米軍基地内の国防総省立小中高等学校（Department of Defense Dependent Schools、略してDODDSダッズと称されます）に通う子供たちの夏休みは6月の中旬から8月の最終週まで約2ヶ月半あります。この間、うらやましいことに学校から出される宿題はありません。というのも、アメリカの子供たちは夏休み明けには新しい学年に進級するからです。日本でも進級前の春休みに宿題を出されることは少ないですよ。また、嘉手納基地では夏休みが軍人の転勤時期になっているため、夏休みを挟んで他の基地にある学校に転校する生徒を見送り、他の基地から転入してきた生徒を迎える機会が増えます。2カ月半の間、そんな子供たちが家にこもりきりにならないよう、嘉手納基地内にある福利厚生施設では子供向けのさまざまなプログラムを用意しています。

12歳までの子供たちを対象に年間を通してダンス、体操、ピアノ教室などを含む放課後活動の場を提供しているKadena Youth Center（嘉手納ユースセンター）では、夏休みの特別イベントの1つとして本島北部にあるキャンプ奥間で5日間に渡る交流会を行いました。嘉手納基地からは22名の子供たちが参加し、ハワイ、グアム、アラスカ、韓国など同じ太平洋地域にある他の米国空軍基地からも28名の子供たちが沖縄に招待されました。「5日間の間、バーベキュー、海水浴、バナナボート、ちゅら海水族館、名護蝶々園ツアーなどいろいろありました。なかでも、乾燥スルメイカやゴーヤーチップスなど日本・沖縄の料理や食材を子供たちが食べ、それが何かを当てるというゲームは盛り上がりました」と話すのは施設長のテレサ・ウィッチェンさん。夏休みの後半には、沖縄の子供たちをYouth Centerに招待してのお泊り会も予定されています。

13歳から18歳までの中・高校生を対象に放課後活動の機会を提供しているTeen Center Millennium（ティーンセンターミレニウム）でも、夏休みの特別企画としてビーチでのキャンプや、アイススケート場に遊びに行くツアーを企画しています。また、生徒たちはこの施設で提供されているY.E.S（Youth Employment Skills/ユース エンプロイメント・スキル）というボランティアプログラムに参加することもできます。このプログラムでは生徒に、参加したボランティア時間に応じて最高1000ドル（約10万円）が高校卒業時に奨学金として支給されるのですが、施設長のロドニー・トランブルさんは「他の地域にある米空軍基地では普通、Y.E.Sプログラムへの参加者は夏休みが一番増えるのだけれども、沖縄の嘉手納基地では、夏は海水浴やお祭りなど楽しい催しものがたくさんあり、夏休みの参加は減るといふ珍しい傾向にあります」と話しています。それにしても、働いた報酬を自分の学費に回すという、なんともアメリカらしい面白い取り組みですね。Youth Center、Teen Centerともに、コンピューターゲームルーム、インターネット、体育館などの施設が充実していて、夏休みの間は普段よりも多くの子供たちで賑わっています。

また、日本で言うところの学童保育を行う施設である「ヒマワリ」や「シマノコ」では、夏休み期間中は子供向けの観光地ツアーに加え午前中からの業務も行い、共働きの両親が子供を早い時間から預けることができるようになっています。Arts & Crafts Center（アート＆クラフトセンター）やYouth Sports & Fitness Center（ユーススポーツ＆フィットネスセンター）といった施設

でも油絵教室やサッカー教室などの子供たちが気軽に参加できる講座が有料（一部無料）で提供されています。基地内の小学校の中にはシーサー沖縄そば作り体験や、地元の工場見学など県内北から南まで様々な場所を巡る、子供たちにとっての“学べる機会”を提供している学校もあります。2ヶ月半の夏休みと聞くととても長く感じますが、アメリカ本国にいる親類の家に遊びに行ったり、今回紹介した多くのプログラムに積極的に参加したりしている子供たちにとってはあっという間の夏休みなのかもしれませんね。



KIDS DURING THE SUMMER



Kaena Special Olympics

嘉手納スペシャルオリンピックス ボウリング競技開催決定！

第18航空団広報局

知的、身体障がいを持つアスリートを対象にした、嘉手納スペシャルオリンピックスが今年もやってきます！ ボウリング競技は2009年9月19日（土）にシーサイドボウルミハマで開催されます。嘉手納基地周辺の自治体、嘉手納町、北谷町、沖縄市、そして在沖米軍基地に在住あるいは勤務する知的・身体障がいのあるアスリート（大人）またはその3市町の学校に通う7歳以上の小中学生、さらに沖縄県立特別支援学校に在籍する学生を主に対象として、先月ボウリング競技の申込募集を行いました。

昨年は約180名ほどのアスリートがボウリング競技に参加し、基地内からの米国人ボランティア、基地の外からの通訳ボランティアも参加しイベントをサポートしました。嘉手納スペシャルオリンピックスは2000年より開催され、今年の本大会開催日は2009年11月14日（土）に予定され、今年で10年目を迎えます。ボウリング競技は2005年に導入され、それ以降スポーツイベントの一つとして開催されています。

ボウリング競技は大人の部（19歳以上）と子供の部（7歳～18歳）のカテゴリーに分かれて開催されます。200点以上の高得点を記録するアスリートも参加したりと、例年ボランティアも驚かされています。中にはアスリートの応援のため、父兄やお友達も手作りの応援ポスターなどを持って熱い声援を送るグループもあります。米国人ボランティアや通訳ボランティアとの交流で新たな友好関係を築き、スコアに関係なくボウリング競技を楽しむことを願いながら、今年も嘉手納スペシャルオリンピックス委員会は準備を進めています。

嘉手納スペシャルオリンピックスの準備調整を行っている委員会を少しだけ紹介します。毎年、イベント開催のため計画や調整等を行うスペシャルオリンピックス委員会がイベント開催の6ヶ月ほど前に立ち上げられ、米軍人、軍属、日本人従業員を中心とするメンバー約40名が様々な分野の担当となり準備を行います。一日のイベントに半年の準備期間を費やすイベント企画です。今年のボウリング競技の準備として、先月、各学校や福祉作業所関係者のご協力を得ながら、委員会のメンバーであるスクールコーディネーターが申し込み手続きを行いました。現在、その集計を取りながら、スポーツ担当者と一緒にイベントに向けて今年も楽しいイベントになるよう計画を立て、より良い大会作りを目指し、今年の委員会メンバーも準備に取り組んでいます。引き続き、関係者の皆様の温かいご支援、ご協力を宜しくお願いします！



Let me win.
But if I cannot win,
let me be brave in the attempt.

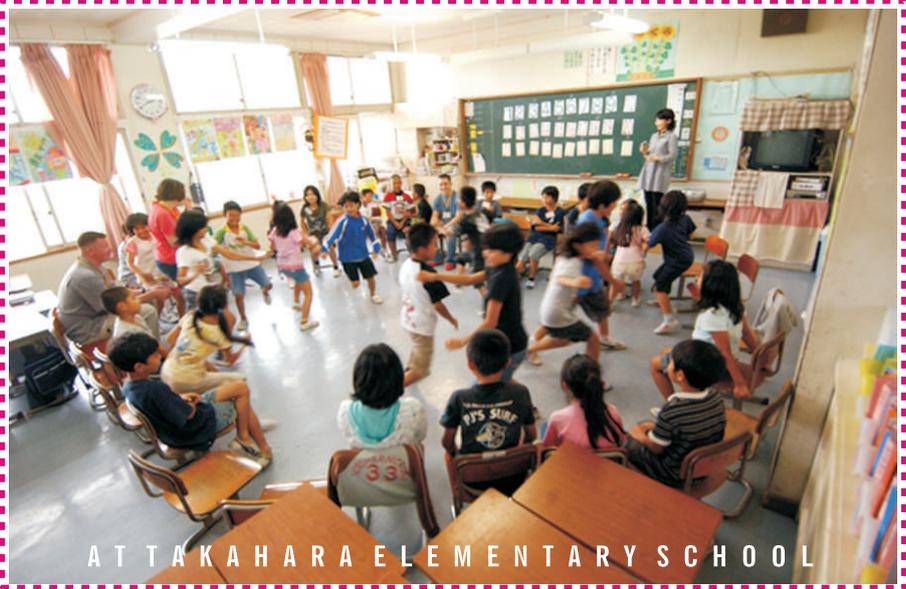
- Special Olympics Athlete Oath -



Kaena Special Olympics KSO BOWLING GAME

英語ボランティアは 大切な交流活動

第18航空団広報局 レイ・ラモン1等軍曹



(写真全て、米空軍レイ・ラモン1等軍曹撮影)

この10年間、嘉手納基地の空軍兵は、地元沖縄の小学校でゲームや英会話を通して、子供達のやる気を引き出しながら、ボランティアで英語を教えています。嘉手納基地広報局渉外部は、米国人ボランティアそして地元の各学校と調整しながら、各学年の生徒達が生の英会話に接しながら交流を図れるよう計画を立てています。一般的な英単語を教えることよりも、むしろ子供達が英語を学ぶことに対し関心を高められるように、英語を使って楽しく授業を行うことに重点を置いてプログラムを進めています。

「4年生の生徒達にはゲームを通して教えるほうが、英語を理解しやすいようです。その方が英語にもっと興味を持って集中し、学んでくれると感じました」と話すのは沖縄市立高原小学校で4年生の担任をしている兼島紘子先生。高原小学校の先生方は、生徒達に英語力を付けてもらうこと、同時に異文化を学ぶ事がとても大切だと説明します。



嘉手納基地のボランティアの一人であるジェフリー・ワイソンさんは「この活動を通して、日本の文化にふれる素晴らしい機会を得て、さらに日米文化の交わりを直に体験できることを楽しんでいます」別の4年生を担当する金城まゆみ先生は、米国人ボランティアが学校に来てくれてとても役立つとあり、来てくれるだけで生徒達は異文化を体験することができると思います。金城先生は「ボランティアの方達は、生徒達を褒めてやる気を起こさせるのがとても上手ですね」と語り、ボランティアが継続して来てくれることによって、さらに子供達の英語に対する意欲がでてくるということです。

この活動で、生徒は一人一人が米国人ボランティアと会話をする機会を得ることができます。ボランティアとして参加している第961航空空中官制中隊で通信システム運用の評価担当者であるローリー・モントゴメリー2等軍曹は、生徒達の年齢を知りその英会話能力に驚きました。彼女が生徒達の名前を覚えようと発音するも難しく、自分が日本語を習うより彼らの方がずっと上手に英語を話していますよと笑っていました。モントゴメリー軍曹は「地元の小学校で、ボランティアで英語を教えるという事は、私が沖縄に滞在し生活する中で、最も充実感とやりがいを持つことができる活動の一つです」と話します。

このボランティア活動とは別に、ALT（外国語指導助手）と呼ばれる英語教師が教育委員会から、各学校に1名ほど派遣されています。その授業数も限られており生徒一人一人がALTの先生と話す機会を得ることは難しいけれど、米国人ボランティアとの授業では、複数のボランティアが各クラスに入り生徒全員が英語で会話し、ふれ合うことができるし、さらに英語を習得することによって生徒達の可能性が広がると金城先生が説明してくれました。「現代の国際化社会では、私達教師のみならず、親御さんたちも、もっと自分の子供に英語を勉強してもらいたいと願っているんです」さらに世界を見て、多くの可能性をつかむために未来を切り開いてもらいたいということが教師と親御さんたちの希望です、と金城先生。

ボランティアのワイソンさんは「私達の願いは、生徒さん達に他国の人や文化とのふれ合いは勉強になるだけでなく、楽しいものなのだという事を分かってもらうことです」と話していました。

ENGLISH VOLUNTEER
ENGLISH VOLUNTEER
ENGLISH VOLUNTEER



E N G L I S H V O L U N T E E R